

クワシロカイガラムシの発生状況と 防除方法について（第2世代）

平成29年7月18日
埼玉県茶業研究所
いるま野農業協同組合

クワシロカイガラムシ（以下クワシロ）の産卵や幼虫の発生はやや遅い見込みです。
次の方法により、茶園の防除や更新処理を適切に行ってください。

1 発生状況

7月18日現在、クワシロ雌成虫の産卵率は100%に達しており、ほとんどの地域で歩行幼虫が発生し始めています。

2 積算温度による推定

青梅アメダスデータと各地で調査している温度データによる推定防除適期は以下の通りです。

積算温度調査地点	積算温度と切り枝調査による推定防除適期
所沢（北野） 所沢（下富）	7月27日～8月1日
所沢（狭山ヶ丘） 狭山市（笹井）	7月28日～8月2日
入間市（野田） 飯能（芦荻場）	7月29日～8月3日
入間（藤沢） 日高（高萩）	7月31日～8月5日
入間（根岸）	8月1日～8月6日
入間（木蓮寺）	8月2日～8月8日
青梅アメダスデータ	7月26日～30日

3 防除適期

防除適期は幼虫が発生し始めてから7～10日後になります。7月18日現在の幼虫発生状況や上記のとおり積算温度による推定から、防除適期は7月29日～8月8日頃と想定されます。

ただし第1世代の発生が早かった地域や日陰のある茶園では7月27日～8月1日頃と想定されます。深刈り・中切りをしていて茶株内が高温になる場合、また今後も猛暑日が続く場合は適期が遅れる可能性があります。防除効果が期待できる時期はとても短いのでこれらの適期を逃さないようにしましょう。判断が難しい場合はご相談ください。

なお、茶業研究所では8月から耐震工事が行われることもあり、防除適期判定会は行えません。防除適期については農薬販売店等に相談するか、下記問合せ先に直接ご相談ください。

4 防除方法

プルートMCを散布していないほ場については、アプロードエースフロアブルまたはコルト顆粒水和剤を防除基準に従って散布してください。これらは、天敵に影響の少ない農薬です。株内の枝に十分液がかかるように丁寧に実施してください。

プルートMCを散布したほ場については、他の薬剤でこの時期に防除をする必要はありませんが、クワシロの発生については今後注意して観察を行ってください。

農薬を使用する際には、必ず使用農薬のラベルを確認しましょう

連絡先：埼玉県茶業研究所 農業革新支援担当 田中
茶業技術研究担当 岩崎

TEL：04-2936-1351

もしくは、

いるま野農業協同組合各地域営農センターまで

※この通知は茶業研究所農業革新支援担当とJAいるま野が協力して作成し、お知らせしています。